

また会える (2)

また会える

竹澤さおり

(前号から)

その時の私には、お寺に行くのは身近な人が亡くなった時だという認識しかなかった。で、雅人の死を受け入れていない私にとって、お寺は行きたくない場所でした。雅人はまだ見つかっていないだけで、死んだんじゃないと思いたかった私は、雅人の葬儀なんて考えたくもなかったので相談するのもしませんでした。お寺に着いてからはそのような思いに耐えられなくなり、長い時間泣いてしまいました。主人が農さんにいるいと相談している間も、私はずっと下を向いたままで、大変失礼なことに農さんがしてくださったお話はほとんど覚えていないので

すが、当時のブログにこのように記録していました。

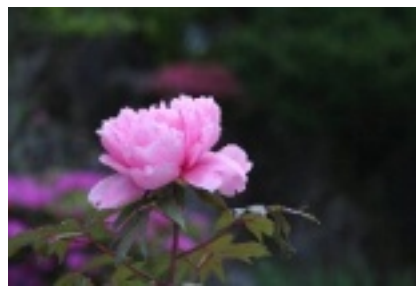
「今日聞いた話。『人は必ず死ぬ。生きていることが奇跡。大切な人は死を通じて私たちに大切なことを伝えてくれる』 たった八ヶ月弱。何のために雅人は生まれてきたのかと思う度、悲しかった。でも、この教えの通りに考えれば、雅人はママに何か大切なことを伝えるために生まれてくれたんだね。それを素直に受け入れられたら、もう少し楽になれそうだね」

その後も農さんは、そのような態度でした私のことを気にかけてくださり、主人が相談に行くたびに「奥さんはお元気ですか。いつでもいらしてくださいね」などと気遣っていたのでいたそうです。この浄土真宗との縁、農

さんとの縁が、この後の私にとって大きなものとなっていきました。

雅人の葬儀は二〇一二年四月に、主人の実家のお墓のある東大阪のお寺で身内だけで行いました。主人が、「あまり時間がたつと雅人のことを忘れられてしまいうさだ。それでは雅人がかわいそうだ」と言うので、まだ世間から震災の記憶が薄れる前に葬儀を行うことに決めましたが、私はまだまだ受け入れられないという思いがとて強く、これは形だけなんだと、雅人は見つからないだけなんだと、言い聞かせていました。

お仏壇の前で



その年の年末には、来年三月の雅人の三回忌の相談のために、名取市の明観寺に初めて行きました。まだ、お墓もお仏壇も法名もないことを伝えると、「手を合わせられるようにした方がいいですよ」とのお話があり、小さなお仏壇をいただきました。その時も私は、雅人は見つからないだけなのに、死んだみたいにお仏壇に手を合わせるなんて嫌だという思いでいっぱい、せつなくお願いしたお仏壇ですが、家にはおきたくないと思いましたが。でもその後、主人がお仏壇を飾りお線香もあげるようになりました。お仏壇は、亡くなった家族のためのもの：私はまだそのように思っていたので、お仏壇があることやお線香の香りがすることに違和感を覚え、雅人が死んでしまった、雅人と二度と会えなくなっただと意識するようになり、心が壊れそうになりました。

(次号につづく)

法語の世界

《原文》

前々住上人(蓮如)仰せられ候ふ。不審と一向知らぬとは各別なり。知らぬことを不審と申すこと、いはれなく候ふ。物を分別して、あれはなににと、これはいかなどいふやうなることが不審にて候ふ。子細もしらずして申すことを、不審と申しまぎらかし候ふよし仰せられ候ふ。

(『蓮如上人御一代記聞書』 二百十九)

《現代語訳》

蓮如上人は、「疑問に思うということ、少しも知らないということは、別のことである。まったく知らないことを疑問に思うというのは、間違っている。物事をだいたい心得ていて、その上で、あれは何であろうか、これはどうであろうかというものが、疑問に思うということである。ところが、人々はわけを少しも知らないで尋ねることを、疑問に思うといつてごまかしている」と仰せになりました。

高千穂組仏教夏季講座開催のお知らせ

とき 七月二十二日(日)
ところ 五ヶ瀬町桑野内 光照寺
講師 浄土真宗本願寺派布教使

熊本教区飽田組浄行寺住職
盛 忍 師

その他 金光寺から六人参加予定です。
参加希望の方は金光寺へお申込み下さい。
念珠・門徒式章、お経本が必要です。



有縁の皆さん お揃いで ようこそ 初参りに!

4月15日(日)、木村和史さん・明菜さんのご長男、日護(ひゅうご)ちゃんのご両親、父方のおじいさん・ひいおじいさん、母方のおばあさんと一緒に初参式(初参り)に来てくれました。待望の男子誕生、皆さん満面の笑顔にてのご縁でした。